第231号
発行所　上高井教育会
発行人　上高井教育会理事長　天野義孝
編集人　会報編集委員長　宮坂ゆかり
印刷所　須坂新聞社

感性と表現力を磨く俳句学習

豊洲小学校

豊洲小学校の特色ある教育活動の一つに、俳句学習があります。年間八回の「俳句の日」に全校で俳句づくりに取り組んでいます。

俳句学習は、地域の俳句会の皆様にご協力いただきながら続けてきました。七年前からは、田中義人先生を講師としてお迎えし、俳句の日に一学年ずつ指導していただいています。

俳句は、十七音の短い言葉で情景や場面を表現できるよさがあります。言葉を選び抜くことで語彙を増やしていくこともできます。子どもたちは、季節の様子を友達と話し合ったり、ときには校舎外を巡ったりしながら、学年に応じて俳句づくりに励んでいます。

田中先生との学習では、事前に作った俳句を皆で鑑賞し合います。友達のつくった俳句を味わうのも楽しいひとときです。いいなあと思った句を選び、感想を伝え合います。だれの句かは伏せてあり、自分の句は選ばない約束です。友だちの句に「ぼくもそう感じた」と共感したり、「この言葉がいいなあ」など自分とは違った表現の仕方を学んだりする姿が見られます。また、自分の句がどのように伝わったのかも確認でき、うれしそうな表情が見られます。

田中先生の俳句教室

そして田中先生から、作品を通して表現の工夫を具体的に教えていただいたり、物事をよく観察することや自分だけの発見や感動を大切にすることなど俳句づくりのポイントを教えていただいたりします。ご指導いただいた後には「また俳句を作ってみよう」「今度はこんな表現をしてみよう」と意欲をもつ子どもたちです。

十一月末には、毎年、俳句集会を行って、全校で俳句交流をしています。各月ごとのクラス代表児童が俳句を発表します。発表句について全校で感想を交流します。毎年多くの児童が発表句のよいところを見つけ、ドキドキしながらも一生懸命に発言しています。

また、集会では一昨年からみんなで考え合う場も設けています。

全校での俳句集会

『かき氷□□エベレスト』四角の中にはどんな言葉が入るでしょう。すぐにたくさんの手が挙がり、「冷たい冷たい」「シロップかけても」「高いたかーい」などが出されました。作者の児童に何を入れたかを聞いてみると、『一番小さい』との答え。目の前のかき氷と世界一高い山を結びつけてかき氷の魅力を見事に表現しています。このように俳句集会は、ものの見方や感じ方、言葉の選び方など、学年を越えて学び合う場になっています。

そして、学年末には一年間のまとめとして、俳句集『豊洲の子萌えあがる』をつくっています。ここには、全校児童の俳句をはじめ、保護者や地域の方からお寄せいただいた俳句、豊洲小職員の俳句、また、各コンクールに入選した児童の句が収められています。さらに講師の田中先生からの寄稿、俳句教室や俳句集会の様子などを掲載し製本しています。今年度で二十一集目となります。

20号を迎えた俳句集

俳句づくりを通して、豊かな自然を感じ、地域の方々に支えられ、友達と共に学び合いながら自分の感性と表現力をみがき続けている豊洲の子どもたちです。

（下川　光子）

教育会だより

7・25～26 日本連合教育会研究大会（滋賀大会）
7・26 教育会夏期講演会
○講演会講師 渡部潤一先生
（国立天文台副台長）
「地球外生命発見への期待
―続々見つかる『第二の地球』候補―」
○会員発表 森上小学校　竹内大輔先生
『ツリーハウスができるまで』
7・29～31 同好会夏期講座
8・20 教研推進委員会⑦
8・20 教研学校代表者会②
8・29 教育七団体代表者会
8・30 教研推進委員会⑧ 分科会長会
8・31 上高井教育研究集会（墨坂中）
9・3 研推進委員会④
9・6 同好会⑤
9・11 理事会④
10・1 教研推進委員会⑨
10・3 研究推進委員会⑤
11・11 同好会⑥
11・15 教育会中間会計監査
11・17 研究推進委員会⑥
11・19～20 郡市科学作品展
11・26～27 あゆみ展・学芸展（シルキーホール）
11・29 研推進委員会⑦
12・6 理事会⑤
公開授業研究会
○中心講師 畦上一康 先生
会場 森上小　生活科・総合的な学習
国語（森上小、社会（相森中）
算数・数学（墨坂中）、理科（旭ケ丘小）
音楽（旭ケ丘小）、図工・美術（井上小）
体育・保体（小布施小）、家庭・技術・家庭（墨坂中）
外国語活動・英語（仁礼小）
道徳・特別活動（日野小）
特別支援教育（須坂小、健康教育（教育館）
12・8 同好会⑦
12・14 信教全県研究大会（飯水大会）
12・16 信州 教育の日 小布施大会
12・19 教育会総会④ 教研三団体代表者会②
12・30 同好会⑧
1・3 研究推進委員会⑧
1・16 上高井教育会報第231号発行
1・19 研究委員長会③

火ばち談義

綿と子どもたち

小松　綾実

高山村には、綿栽培に取り組んでいる山本友子さんという方がいます。私は、山本さんのご指導のもと、綿栽培に三回取り組んできました。

最初は、六年生のときです。新聞で山本さんのことを知り、「子ども達と綿作りに取り組んでみたい」と思ったのがきっかけです。ドキドキしながら、お電話をすると、明るい元気のいい方で、さっそく苗を分けてくださるとのこと。子どもたちも「おもしろそう」と賛成してくれました。中庭と一人ずつの鉢に植えましたが、忙しい毎日を送る六年生。お世話は、あまりしてくれませんでした。

しかし、花が咲き、実がなると、子どもたちも関心を持つようになってきました。「花の色が変わるのがおもしろいね」「この中に綿が入っているのかな」「これが服の原料になるの」と興味津々です。十一月に行われる「しらかば学習発表会」の時には、多くの子どもたちが、綿について調べたことを発表し、体験コーナー（綿でサシェ作り。このときは市販の綿を使用）も大盛況でした。最後に、自分で育てた綿で、マスコットなどを作りました。

二回目は、三年生です。このころ、山本さんは、高山村に綿栽培を広める活動をしていたので、綿のことを知っている子もいました。山本さんから綿のお話を聞き、綿で作ったマフラーやマスコットも見せていただきました。

三回目は、一年生です。一年生は、収穫した綿をあさがおリースに入れました。初めて綿を目にする子も多く、「綿がさいた！」と大喜びです。この年、山本さんは、CDつきの絵本「しあわせの綿づくり」を出しました。「♪コットン　コットン　コットントン」と、楽しそうに口ずさんでいる子もいました。

どんどん活動を広げる山本さんの生き方に触れることも活動の魅力の一つです。子どもたちは、今でも、「あっ、綿のおばちゃんだ」と声をかけるそうです。

同じ植物を育てながら、学年によって、違った活動ができることも綿の魅力です。育てることは大変ですが、綿の実を掌に載せて「あったかい」と笑顔になったり、やってよかったなあと思うのです。

（高山小）

カット 高山中　中澤　竣

スポーツ文化を体育授業に

関谷　北斗

私が勤務している小布施中学校では、「体育が好き」という生徒が多く、保健体育科の教員としてはとてもうれしく感じています。

今年の授業の中での三年生のある女子生徒Aさんのエピソードです。バレーボールの授業をしているときに、Aさんがとても一生懸命に取り組む一方で、とてもおとなしく、なかなか自分から教師に話しかけるタイプの生徒ではありませんでした。そんなAさんでしたが、バレーボールの学習では、「スパイクを決める」というのが彼女の目標でした。そこで、「ボールをよく見て、できるだけ高い位置で手のひらにボールを当てること」と説明し、投げ上げたボールを壁に向かって打つ練習を紹介しました。Aさんは仲間と一緒に壁際でボールを打つ練習を繰り返し、少しずつスパイクの感覚を身に付けていきました。そして試合の場面で、一本だけですがスパイクを相手コートに打ち込んで点を取ることができました。このときの彼女の笑顔と、それを称える仲間の歓声が印象的でした。

Aさんに、「どうしてスパイクを決めたいと思ったの？」と尋ねると「テレビで見たバレーボール選手がかっこよくて」という答えが返ってきました。「石川選手がスパイクを決めているのを見て、私もやってみたいと思って…」と、石川選手への憧れを抱いたAさん。今、テレビを点けると様々なスポーツが放映されています。今年は、ラグビーとバレーボールのワールドカップが日本で開催されました。日常的に、それらを目にする生徒達は、少なからず影響を受け、憧れや期待を抱いています。これは、体育の授業を行う上で、この上ないチャンスなのかもしれません。いよいよ来年、東京オリンピックが開催されます。スポーツを見る習慣が日本人の生活に根付いた今、体育の授業を充実させるチャンスだと捉え、体育の授業に関わる者として日々精進していきたいと考えています。（小布施中）

編集後記

令和元年度会報二三一号を発行し、無事にお届けすることができました。

今号は、各学校で大切にされている行事や、地域の方々に教えていただきながらの学習活動の様子を中心に取り上げました。真剣に学びに取り組む姿や、地域や生活に根ざした学習活動がうかがえるあたたかい写真を提供していただきました。

紙面作成にあたり、お忙しい中にもかかわらずご協力いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。会員の皆様に楽しんでいただけるよう、会誌・会報を制作して参りますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

（根岸）